

- ① 聞く幸せ、語る幸せ。うそ話が心に響く
 - ・お話：「百姓の鍬」・・・私が幼い頃に聞いて唯一覚えている話
または：「小僧まで」(新潟)『左近司マサ江のとんとん昔があったとお』より
：「猿とひき蛙の餅争い」(岡山)『日本昔話百選』より
 - ・左近司マサ江さんのこと
 - ・遠野と昔話：「おしらさま」「座敷わらし」「デンデラ野」
- ② 読み継がれ語り継がれて
 - ・お話：「小さな大きいおくりもの」「おかしな暦」
『遠いむかしの不思議な話 宇治拾遺ものがたり』より
 - ・宇治拾遺物語について
- ③ 悪も善も虚偽も真実も、あらゆるものを包み込んで
 - 昔話は凶太い心をつちかう武器・・・『日本昔話百選』解説
 - 昔話はいろいろな人間が生きていける世界・・・『日本昔話②したきりすずめ』解説
 - ・お話：「^{ぶんべつやそう}分別八惣」(東北?)『日本昔話②したきりすずめ』より
 - ・結末句(締めくくりの言葉)について
「いっちゃさけもうした」「どんどはれ」

似たお話

- * 「百姓の鍬」：「からすの鍬」(滋賀・兵庫)『日本昔話百選』
- * 「小僧まで」：「三枚のおふだ」(秋田)『子どもに語る日本の昔話』②
「三枚の札コ」(秋田)『日本昔話百選』
- * 「猿とひき蛙の餅争い」：
「うさぎとひきのもち争い」(京都)『子どもに語る日本の昔話』③
「ひきどんとうさぎどんの餅つき」(新潟)
『左近司マサ江のとんとん昔があったとお』
- * 「分別八惣」：「分別才兵衛」(岡山)『日本昔話百選』

参考にした本の著者・出版社

- 『遠いむかしの不思議な話 宇治拾遺ものがたり』 川端善明著 岩波少年文庫
『左近司マサ江のとんとん昔があったとお』 左近司マサ江著 つくしんぼ企画
『子どもに語る日本の昔話』② 稲田和子・筒井悦子著 こぐま社
『日本昔話② したきりすずめ』 おざわとしお再話 福音館書店
『日本昔話百選』 稲田浩二・稲田和子編集 三省堂
『読みがたり京都のむかし話』 京都のむかし話研究会編 日本標準